

百人会議 まちづくり分科会

牧之原でアートイベントを（牧之原CHARTフェスティバル）

アートイベントとは

2017年10月～11月にかけて静岡県西部で初の試みとなる【掛川茶エンナーレ】が開催され多くの人でにぎわった。この試みは、地域の景観・歴史資源の魅力を再発見し、それを内外に広く発信し、地域のブランド力を高めるというシティプロモーションの側面を持つ。アートはその置かれた場により作者の意図を超えた表情を見せ、大きな共感・あるいは激しい反発、違和感を呼び起こすことがある。それもアートの持つ大きな魅力である。何気ない見慣れた風景が、異物とも思えるアートが混入することで全く趣を変え、異次元空間が立ち上がる。あるいは、置かれたものによってますます空間は深みを増し、誰もが気付かなかった場の力強さをそこに見出す。アートを美術館や博物館の閉ざされたガラスの空間から、自然の光、闇、流れる風、人々のさざめきの中に解き放つことにより、アートも風景も新たな存在として生まれ変わる。

このような試みは、ベネッセがスポンサーとなり瀬戸内の島々で行われている【瀬戸内国際芸術祭】や新潟の【大地の芸術祭】が見事な成果を挙げ、全国から多くの観客を呼び、地域の活性化に結び付けることに成功した。この成功を受け、全国各地でビエンナーレ、トリエンナーレの名を冠したアートイベントが流行のように開催される現象となった。県内では、静岡市の【めぐりアート静岡】、熱海市の【あたま湯ったりアートフェスティバル】、前述した【掛川茶エンナーレ】、伊東伊豆高原のアートイベントなど。今後ますます県内各地で開催されることが予想される。

島田市内では、旧金谷菊川、神谷城で10年以上の歴史を持つ【里山アート紀行】、笹間の【国際陶芸フェスティバル】、クロスメディア島田による島田市街地や大井川鉄道沿線駅を舞台にしたイベントなどがおこなわれている。

アートイベントを単なる一過性のイベントと考え、その期間だけ多くの人を呼びこめば良しと、とらえるか、イベントを呼び水として継続して開催し、その中で地域に眠る資源を見直し、足が地に着いた地域の活性化を模索していくのか、”アートによるまちおこし”が流行のようにもてはやされる今、問われていく。

《提案》牧之原(菊川、神谷城含)でアートフェスティバルを

①なぜ牧之原か

(景観) 眼下に大井川、その彼方に富士を望み、駿河湾をも眺望できる。東洋一の大茶園の春の新芽に覆われた姿は絶景。百選に選ばれた夜景。神谷城、菊川地区は昔ながらの里山の姿を残す。カタクリの群生。旧東海道の趣を今に残す石畳。
国指定の史跡諏訪原城の整備も進んでいる。

(今までの取り組み)

【里山アート紀行】は10年以上の歴史を持つアートイベントである。この地に居を

持つアーティスト（陶芸、石彫、ガラス工芸）やギャラリーの協力を得て地元とも連携し、里山の秋の風景を楽しみながら周遊する毎秋恒例の催しである。ともすれば行政の補助金頼りのイベントだらけの中であって、自立自演の姿勢は評価されるべき。派手さはなくとも地道に継続している。この素地は貴重。（掛川茶エンナーレ）は旧大須賀町で15年以上も前から行われている『遠州横須賀街道ちっちゃな文化展』の歴史が素地となり、この上にさらにグレイドアップして市内全域を会場として展開した。

（他の施設との連携）

2018年3月24日、開館予定の「ふじのくに茶の都ミュージアム」は島田市から県に移管され、静岡の茶の魅力を産業、文化、学術、観光から総合的に伝える施設としてその役割が大いに期待されている。茶の世界的な産地でありながら、茶を含めた伝統文化の普及、啓発という面で後れを取っていた島田にとり、ここの連携、協力こそが肝要。また、国や県の茶業研究機関もこの地にある。まだその姿が見えない状態ではあるが、旧金谷中学跡地にできる施設も期待される。

（交通アクセス）

国道1号バイパスの4車線化、菊川インターのフルインターチェンジ化もすぐ実現され、優れた景観を保持し、しかも交通の便に優れているという優位性。交流人口の拡大に寄与する。

※ 沼津市駿河台に【クレマチスの丘】と呼ばれているゾーンがある。ヴァンジ彫刻庭園美術館、ベルナルド・ビュフェ美術館、井上靖文学館などの施設を中心に、レストラン、ショップからなる複合文化ゾーンで愛鷹山の景観と調和して、おおくのひとびとでにぎわっている。牧之原地区の持つポテンシャルはここに引けを取らない。【文化】を切り口に、この地のブランド力を高める。

②具体的な取り組み

- ① 人材
 - （・総合プロデューサーの確保）全体の構想を企画し、アーティストの選定・確保、会場の選定等、広い視野でプランニングを担当する。県内大学で教鞭をとるアーティストに依頼。
 - （・スタッフの確保）地元ボランティア、地元在住のアーティスト、観光・文化等に関わる団体の人材など。自治会や各種団体、行政と連携し確保。
- ② 財源
 - （・補助金） 県、国、市より文化振興・地域振興・観光振興に係る補助金の確保。恒久的なものではないことを自覚しておくこと。
 - （・企業、個人からの協賛金） 趣旨に賛同していただける企業、個人より募る。
 - （・市よりの支援） 一般会計より、市のシティプロモーション、緑茶化計画の一環としての位置づけ。

- ※ 補助金を充当することのみでの財源の確保は褒められたことではない。文化に関わる事業は自前での財源確保は困難。地域振興、観光促進を含めたシティプロモーションの視点での折衝が肝要。また物販等による資金確保に努め自主財源の比率を高める。基金の積み立て等により継続可能な自立を目指す。

【計画案】

◎基本コンセプト

- ◎ 地域との密着が基本。時間をかけ、ともに創り上げる。
- ◎ 他所での取り組みはあくまで参考。手作り、オリジナルをめざす。
- ◎ ”茶“を切り口とする。飲料としての”茶“はもちろん文化としての”茶“

◎ミッション

- アーティストと地域、市民との交流 ●茶が身近にある（風景・生活）
ことの再発見 ●茶文化の普及

◎会場

●茶畑ゾーン

「牧之原〈富士見町、猪土居、を中心とした地域〉」
一面に広がる茶畑、その景観と調和、あるいは反発する屋外アート。
石畳を歩きながら出現するアートとの出会い。石畳茶屋での展示。
ふじのくに茶の都ミュージアムとの連携。

●里山ゾーン

「菊川、神谷城地域」
金谷、日坂の間の宿としての歴史を持つ菊川、寺社や茶工場での展示。
斜面の茶畑、平地の水田、点在する家屋、この里山の景観に置くアート。
地区集会場や公園も利用する。遊休地や耕作放棄地、刈り取り後の田
に時期に合わせ花畑を出現させる。点在する工房やギャラリーを周遊。

◎アーティスト

島田市在住、出身の作家（物故者含む）を中心に招待作家で構成。

◎イベント

- 作家によるワークショップ ●茶会（煎茶、抹茶） ●コンサート
●茶のコンテスト

百人会議提案
「リバティの利用促進についての提案」

毎年行っている島田マラソンは、全国からの出場選手により盛況の内に開催されます。このリバティの活用をさらに図ることにより来島の人口を増加させ、市内商業の活性化を図りたいと考えます。

提案の内容

駅伝大会の積極誘致活動を行いたい。

箱根駅伝出場大学チームによる合宿が行われているが、これらの既存チームに加え駅伝の有名高校、大学への積極的アプローチを行うように、市当局の対応を強化すべきと考えます。

リバティの特徴

1. 道路規制無しのフルマラソンコース
2. 起伏のすくないフラットコース
3. 使用時間制限が無く 24 時間使用可能なコース

県内テレビ局への情報提供と企画の提案

「全国ネットワーク対抗女子アナウンサー駅伝大会」

NHK、テレビ静岡（フジテレビ）、静岡第一（日本放送）、SBS（TBS）、静岡朝日（テレビ朝日）に所属する女子アナウンサーとキャスターのみによる駅伝大会。

詳細

1. 中継所は 10 箇所程度とする。出発ゴールは陸上競技場とする。
2. 各放送局に担当中継区間を設定する。この間の中継方法は自由（固定、自転車、バイク、車、ドローン等の組み合わせ）但し電動系動力のみ
3. 各中継所におけるイベントは各担当局のアイデアによる。

本企画による効果等

出場者スタッフ 30 名 * 5 チーム = 150 名

全国放送による島田市の宣伝効果

金谷側の河川敷の利用の模索

国道一号線新大井川橋の歩道橋と県道大井川橋の歩道橋を利用できないか。

約 3 km の走路延長ができる。

提言 「ふるさと納税を見直そう！！」

現状のふるさと納税寄附件数・寄附金額情報

	最新人口	平成26年度		平成27年度		平成28年度			
		件数	金額万円	件数	金額万円	件数	金額万円	全費用	返礼品数
島田市	99,463	994	1,700	1,524	2,500	2,570	9,400	57%	228
藤枝市	146,310	2,211	2,500	12,570	19,000	70,135	265,000	59%	850
焼津市	140,719	8,027	285,000	138,903	383,000	231,244	512,000	55%	904

近隣市と比べ件数・金額・返礼品数も大きく劣り、島田市が力を入れているように見えない

平成29年4月1日付 総務省⇒各自治体へ通達

- ①返礼品金金額は寄付金額の3割以下にする。
- ②商品券・家電は全廃
- ③自分が住んでいる自治体に寄付した人に返礼品を贈らない

島田市の特色を生かした「ふるさと納税」の方向性をどうもっていくか？

- * 今と同様に返礼品は地道に地元産にこだわっていく
- * 人気の食肉・水産物をメインにして寄付金額の大幅な増額をはかる
- * 自由に使える留保金から使い道を具体的に示す

－島田市の知名度をもっと上げよう！！

島田市の魅力はなにか（他県の視点で見よう）

島田市観光パンフレットの拡充

市民・行政のひとりよがりにならない

魅力のある商品の企画・開発・掘り起し

知名度アップ

① ＊＊ ＊食品 一番茶油（緑茶オリーブオイル）へバックアップ

② B級・C級グルメ コンテスト実施

＊抹茶を使った創作料理のコンテスト（市民投票で決定）

＊お店で提供し、また家庭でも作れる料理

③ 本通り乱舞コンテストの実施（ソーラン踊り）

＊市内各地域また他市外からも参加できるコンテスト

－ふるさと納税の利用を明確化

① 観光の目玉づくりに絞る

（蓬萊橋がバス旅行の通過点で滞在時間も1時間以内である）

蓬萊橋と富士山がワンショットで撮れる場所の整備

蓬萊橋の関連商品の開発（和洋菓子・記念品・抹茶製品・お酒）

販売所に返礼品コーナーを設ける